



園だより

2月号

令和4年1月27日

駿河台大学第一幼稚園

園長 田所 恒子

自ら健康で安全な生活を作り出す力

一年で一番寒いと言われる大寒。身が縮むような寒さに、春の訪れを待ち遠しく感じる毎日です。そんな中ですが、子どもたちには、園庭に飛び出し、寒さをものともせずに遊ぶ元気いっぱいの姿が見られます。特に、年少児は、入園当初とは比べものにならないほど、身体を活発に動かして遊ぶことができるようになりました。安全な遊び方や身のこなし方を年少児なりに身につけ、成長した姿が見られます。

幼稚園教育要領の領域「健康」では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」として、「健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する」ことをねらいとしています。その内容として「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動が分かり、安全に気を付けて行動する」が挙げられています。

本園では、今年度、テーマを『進んで身体を動かすことをして楽しむ幼児を育てるー「やってみよう！」とする気持ちがつながる環境の構成ー』として園内研究を進めてきました。その後、子どもたちは、主体的に身体を動かして遊ぶことを通して危険を回避できる力や遊具の安全な使い方等を身につけています。寒さをものともせずに元気に遊ぶ子どもたちに、様々な動きを楽しみながら、健康で安全な生活を作り出す力が芽生えてきていることが分かり嬉しくなります。

また、本園では月に1回、火事や地震、防犯と様々な災害を想定した避難訓練を行い、非常時における行動を身につけられるよう指導しています。昨年まで、ご家庭に実施日をお知らせしていました。しかし、事前に知っていると不安になる子どもがいたため、今年度は避難訓練の日程を通知せずに実施することにしました。災害はいつ来るか分からないので、この方法は良かったと思います。子どもたちへの訓練だけでなく、教職員も評価・反省を行い非常時の対応がより適切なものになるようにしています。1月は、担任にも無通知で避難訓練を行いました。年少児には、訓練の放送が入ると保育室に戻ろうとする子どももいましたが、恐怖や不安から泣く子どもはいませんでした。成長です。東日本大震災の折、「泣かないで指示を聞き避難する」ことが身を守る上でとても重要だったそうです。緊急事態の中で、パニックにならず教師など身边にいる大人の話を聞いて行動する、自分が置かれた状況を伝えられる、そんな安定した人間関係や落ち着いて行動できる力を育むことを日頃から大切にしたいと思います。

さらに、交通安全指導も年間計画に基づき毎月1回行っています。1月は、学年毎に、国領小学校付近の信号機を使用して横断歩道の渡り方を学びました。子どもたちは、横断歩道では「右を見て、左を見て、もう一度右を見て。手を上げて渡る」ということは理解しています。しかし、自分で判断できずに、友達が渡ろうとするとつられて慌てて渡ろうしたり、何回も左右を見ているうちに信号が点滅してしまったりする様子が見られました。また、直進車は判断できても、十字路の左折の車に気をつけることはとても難しいようでした。交通安全の指導は、幼稚園の指導だけでは身に付きません。毎日の登降園時に保護者の方が見本となりながら、教えていただくことがとても大切です。特に、4月からは一人で通学することになる年長児は、今から小学校への通学路を保護者の方と一緒に歩いて、安全な歩き方を身に付けて行くことが必要です。そして、その道筋にある「子どもの家」の存在も教えてあげ、困った時に助けてくれる人がいることを知らせてていきましょう。

子どもたちに、自ら健康で安全な生活を作り出す力を、幼稚園とご家庭が協力して育ててまいりましょう。



年少児は、裸足になり全身を使いながらクジラの固定遊具をよじ登り楽しんでいます。年中・長児の姿を真似ながら、安全な遊び方や身のこなし方を学んでいきます。



年長児は、サンタクロースからのプレゼントの竹馬に挑戦しています。体重移動などバランス力に加え、園庭のどこで使えば他の子どもたちに迷惑がかからないかと他者の安全を考える力も育ってきました。



信号の渡り方、道の歩き方等の交通安全指導は、幼稚園での指導と日常の生活の連携が大切です。



子どもの家のマーク。幼稚園の玄関にも貼ってあります。